

けいはんな学研都市7大学連携 市民公開講座2026 講座内容



第1回

9月4日（金）

理想の品種は作れるのか？

～種がないピーマン・トウガラシの

育成に向けて～

農作物は、収量や品質、栽培のしやすさなどを向上させるため、日々品種改良が進められています。

その背景には、遺伝子の配列や組み合わせの変化があります。では、理想的な特性を持つ品種を生み出すためには、どのような遺伝子を変化させればよいのでしょうか。

本講演では、ピーマン・トウガラシ類の「種なし品種」の作出を目指した遺伝子解析についてご紹介します。

京都大学 大学院 農学研究科 助教 牧 隆宏

13:05～14:20

サイエンス&アート

第2回

9月11日（金）

こどもの声を聴く

～響き合う身体を取り戻す～

不登校の急激な増加など、こどもの現状を鑑みれば、こども一人ひとりを大切にするという根本に社会全体で立ち返るときではないでしょうか。

その手掛かりとなるのが「こどもの声」です。「こどもの声」を聴くと、私たちのこども性が甦ってくることがあります。

その響き合う身体を取り戻すことで見えてくる豊かな世界観を事例とともに提示します。

同志社女子大学

現代社会学部 現代こども学科 教授 勝浦 眞仁

13:00～14:15

ウェルビーイング

無音の世界に「光」を灯す

～聴覚の仕組みから

レーザー人工内耳の開発まで～

私たちはどのように音を聴いているのでしょうか。

本講座では、耳の基本的な仕組みを紐解きながら、光で神経を刺激する最先端の「レーザー人工内耳」の研究開発について解説します。

動物の音声コミュニケーション研究から得られた知見も交えつつ、新しい医療の可能性を拓く次世代テクノロジーの現状をご紹介します。

同志社大学 生命医科学部 医情報学科 教授 小林 耕太

14:30～15:45

サイエンス&アート

第3回

9月18日（金）

植物の繁栄を支える花粉の謎

～花の生命を繋ぐアートな世界～

花を咲かせる植物は地球上に35万種以上存在します。

足元の小さな花にも、オスとメスの巧みな駆け引きや、生命のドラマが隠されています。

近年、受精の瞬間をライブ観察し、花を透明にして3D構築するなど、受精や花粉の発生を新しい手法で研究できるようになりました。最新の成果をカラフルでアートな顕微鏡画像とともに紹介します。

奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科
バイオサイエンス領域 特任准教授

水多 陽子

13:00～14:15

サイエンス&アート

日本庭園

～使われ方の歴史と美を生み出す手法～

日本において庭園は祭祀や儀式的場として始まり、饗宴、娯楽、逍遙、接遇の場あるいは鑑賞の対象として造形され、使われてきました。

こうした使われ方の歴史を踏まえながら、庭園に求められてきた多面的な美ならびにそうした美を生み出す作庭手法についてお話しします。

武庫川女子大学

建築学部 景観建築学科 非常勤講師

小野 健吉

14:30～15:45

サイエンス&アート

関西館

ゲームで社会を考える

～プレイしながら学ぶ、

シリアスゲームの世界～

近年、教育、医療、地域活性化などをテーマとする「シリアスゲーム」への注目が高まっています。

シリアスゲームとは、ゲームならではのおもしろさとともに、スキルアップや知識習得などを目的としたゲームです。

「シリアスゲーム」をキーワードに、「遊ぶこと」と「学ぶこと」をつなぐゲームの可能性や課題についてお話しします。

大阪電気通信大学 総合情報学部

デジタルゲーム学科 准教授 シン ジュヒョン

14:35～15:50

サイエンス&アート

江戸時代の奈良における

芝居興行について

江戸時代の奈良の人たちは、どこでどのような芝居を観ていたのでしょうか。

京都・大坂のような劇場街がなかった奈良ですが、奈良町や寺社の境内などでは芝居が上演されていました。

そこで、町奉行所に提出された文書や残っている日記の芝居関連の記事などを使いながら、奈良における芝居興行の実態を具体的に考えていきます。

16:05～17:20

サイエンス&アート

けいはんな学研都市シンボルキャラクター みらるる

「けいはんな万博2025」の開催にあたって制作されたロゴマークは、シンボルキャラクターへと進化し、一般公募により名付けられた『みらるる』という名前とともに、その存在を広く知っていただけるようになりました。

みなさまに愛されるキャラクターとなれるよう

けいはんな学研都市のシンボルキャラクターとして、引き続き活躍します！

未永く、皆様のお目にかかれそうですよう
ご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。



遺伝子は

どうやって作られるのか？

～「若い遺伝子」から探る遺伝子誕生の謎～

遺伝子は生命の設計図とも呼ばれ、生物の形や性質を決める重要な情報ですが、その設計図はいつ、どのようにして作られたのでしょうか。実は、現在の動植物の祖先が誕生したあとも、進化の中で新しい遺伝子が次々と生まれていったことがわかってきました。本講演では、そのような生命史における「若い遺伝子」に着目し、遺伝子とは何か、そしてその誕生についてお話しします。

京都府立大学 大学院

生命環境科学研究科 遺伝子工学研究室 講師 佐藤 壮一郎

16:00～17:15

サイエンス&アート

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科 教授 川端 咲子